

比較家族史学会

会報 比較家族史 76

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F

(株)毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

E-mail:maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222(名義 比較家族史学会)

2021年 比較家族史学会 第68回 春季研究大会のご案内

【日程】 2021年6月19日(土)・20日(日)

【会場】 京都大学・東京大学サテライトオフィス

【参加費】 無料

【開催方法】 オンライン開催:Zoom ウェビナー形式(定員:500名)

参加申し込み締め切り:2021年6月13日(日)

【参加方法】 申込方法については後日メールならびにHPにて案内の上、申込者に大会前にZoom参加に必要なURL等及びレジュメ入手方法を連絡(非会員も参加可)

【プログラム】

6月19日(土)

9:30~9:35 開会挨拶 小池誠(会長・桃山学院大学)

9:35~9:40 大会運営についてのお知らせ

9:40~11:20 自由報告 司会 宇野文重(尚絅大学)

9:40-10:05 宋円夢(京都大学文学研究科・院)

「中国における『二人っ子政策』以後のマス／ソーシャルメディアによる『家族像』の再編成—生政治を乗り越える可能性から」

10:05-10:30 田中美彩都(東京大学・日本学術振興会特別研究員)

「植民地期朝鮮(1910-1945)における異姓不養原則の『伝統』化過程—婿養子制度導入の経緯と朝鮮社会の対応を中心に」

10:30-10:55 孫詩彧(名古屋大学男女共同参画センター・GRL)

「家庭役割の分担を調整するプロセス—中日育児期共働き夫妻の事例を用いて」

10:55-11:20 永野由紀子(専修大学)

「インドネシア・バリ村落の家族・親族関係・近隣組織—グスンサリ慣習村の2つの部落の事例」

(休憩 70分)

12:30~18:00 シンポジウム

テーマ「東アジアはどこまで『儒教社会』か?—チャイナパワーとアジア家族」

司会 落合恵美子 (京都大学)・小浜正子 (日本大学)

*主催: 比較家族史学会・共催: 科学研究費基盤 B「東アジアにおける家族とセクシャリティの変容に関する比較的研究」(研究代表者: 日本大学文理学部・小浜正子)

開会と趣旨説明

12:30-12:45 小浜正子 (日本大学)

「東アジアの家族主義を歴史化する」

12:45-13:00 落合恵美子 (京都大学)

「アジアの重層的多様性—双系的アジア/父系的アジアと文明化」

第1セッション: 儒教と家族—中国の思想と現実

13:00-13:20 小島毅 (東京大学)

「儒教経学における家族」

13:20-13:40 佐々木愛 (島根大学)

「儒教の『普及』と近世中国社会」

13:40-14:00 第1セッション討論

(休憩 10分)

特別講演

14:10-15:00 Martina Deuchler

"The Impact of Confucianism on the Korean Kinship System: A Reconsideration"

(休憩 20分)

第2セッション: 儒教受容の多様な側面—近世東アジアの各地域

15:20-15:40 吉田ゆり子 (東京外国語大学)

「儒教思想の日本的受容と職分観念—性別役割に注目して」

15:40-16:00 牧田勲 (摂南大学)

「近世刑法と武士道儒教—忠孝を中心に」

16:00-16:20 武井基晃 (筑波大学)

「琉球王府の家譜制度と儒教—新たな姓・家系の成立の仕組みを中心に」

16:20-16:40 桃木至朗 (大阪大学)

「近世ベトナムにおける族の形成と村落社会」

16:40-17:20 第2セッション討論

(休憩 10分)

第一日目討論 (17:30-18:00)

討論者: 豊島悠果 (神田外語大学)

6月20日(日)

第3セッション：東アジアの近代と儒教

10:00-10:20 鄭智泳(梨花女子大学)

「朝鮮儒教家族論再考—大家族・家長権・国家政策」

10:20-10:40 官文娜(香港大学)

「東アジア養子縁組文書の比較と儒教的宗族原理」

10:40-11:00 森本一彦(高野山大学)

「民俗慣行と儒教」

11:00-11:30 第3セッション討論

(休憩 60分)

第4セッション：儒教的なるものの現在—祭祀・相続・系譜

12:30-12:50 文玉杓(山東大学・韓国学中央研究院)

"Daughters' Rebellion: Women and Lineage Property in Contemporary Korea"

(娘たちの反乱—現代韓国社会における女性と宗中財産)

12:50-13:10 加藤敦典(京都産業大学)

「儒教的祖先祭祀モデルの複相性—現代ベトナム村落における家屋と居住と祭壇」

13:10-13:30 王小林(香港城市大学)

「墓のない故郷へ—現代中国における『家』の機能」

13:30-14:00 第4セッション討論

(休憩 10分)

第二日目討論(14:10-14:50)

討論者 小倉紀蔵(京都大学)

(休憩 20分)

総合討論(15:10-17:00)

討論者 栗屋利江(東京外国語大学)

小泉順子(京都大学)

(*両日とも日韓通訳を予定)

17:00~17:05 閉会挨拶 床谷文雄(副会長・奈良大学)

17:05~17:10 参加者全員オンライン退出

17:20~18:00 総会 ※シンポジウム終了後、比較家族史学会の総会を行います。

*総会は大会とは別に「総会用 zoom」で開催します(こちらは会員限定とするためです)。こちら後日、会員 ML で登録のお願いをしますので、大会とは別に参加申し込みをお願いします。

【シンポジウムの趣旨】

中国の台頭がめざましい 21 世紀の世界において、東アジアは中国との関係で再定義されつつある。中国文明圏は現代になっても共通する性質をもつという認識を表しているのが、儒教資本主義、儒教福祉国家などといったカテゴリー化である。「儒教」が中国文明を代表するレッテルとして用いられている。

しかし、そもそも儒教社会とは、どのような社会を言うのだろうか。儒学の考え方はどのように、またどの程度、中国をはじめとする東アジア社会を規定しているのか、いないのか。この問いに対し、地理的には東南アジアまで含む広義の「東アジア」社会の比較を通して、答えを出すのが本シンポジウムの目的である。

儒教は家族主義的なものであるとしばしば言われ、家族はこれらの社会それぞれの文化的な核とされてきたから、これは比較家族史を掲げる本学会がいつかは取り組まねばならなかったテーマであると考え。とはいえ、儒教の影響とされる家族主義・祖先崇拝の重視・父系血統主義など、尊卑のヒエラルキーを伴った人間関係のネットワークによる社会秩序形成は、儒教だけの専売特許でもない。

このテーマに関する各国の研究状況はさまざまである。中国自身については、儒学を国家イデオロギーとして位置づけようとする動きがある一方で、異なる時代・地域・階層に対して、儒学がどのように異なった意味をもっていたのかを実証的に問い直す研究が始まっており、道教や仏教との対立および融合にも注意が向けられている。韓国では朝鮮時代後期に朱子学の影響により「朝鮮社会の儒教化」が起きたという説をめぐって、新たな研究が生まれている。その一方で、日本の学界は「儒教と日本」という問いをしばらく避けてきたのではないだろうか。それ自体が戦後日本のナショナリズムと自己認識の問題として興味深い。今回はこの問いに、正面から、比較史的視点をもって向き合ってみよう。日本の「家」は固有の家族制度だと言われる一方、儒教の影響も指摘されているが、それはどのような意味においてだろうか。

本シンポジウムではさらに、ベトナムはもちろんのこと、その他の東南アジア諸国も含めて、「儒教」というチャイナパワーが歴史的に、また現代において、アジアの家族やジェンダーにどのような影響を与えてきたのかを探りたい。その際、思想自体の変容および思想と実践の乖離と相互浸透、さらに儒教的世界観において周縁化されやすい女性と庶民層にとりわけ目を向け、「儒教」とジェンダー、「儒教」と階層の関係の解明に注力したい。

【大会運営委員長・委員】 落合恵美子（委員長）小浜正子（日本大学）、税所真也（東京大学）、中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）、野辺陽子（日本女子大学）、李璟媛（岡山大学）

委員会報告

【庶務委員会】

(1) 会員メーリングリストについて

この2月から会員のメーリングリストの運用を始めました。まずは大会関連情報や新刊紹介からお届けしています。新刊紹介を希望される方は、こちら(hikakukazoku.books@gmail.com)までご連絡ください。学際的な本会の強みを活かした会員相互の情報交換の場として活用できるよう検討しています。続報をお待ちください。

(2) 会員への連絡方法について

昨年度より学会からの連絡は、『比較家族史研究』と会費納入依頼、理事選挙以外は基本的にホームページへの掲載、およびメーリングリストでの送信とさせていただきます。

つきましては、メーリングリストが届いていない方は、急ぎメールアドレスを学会事務局へお届けください。メールアドレスを変更された場合も、学会事務局までご連絡ください。

(3) 会員情報の変更

会員情報に変更がある場合には、学会事務局までご連絡ください。所属・住所などの変更のほか、65歳以上の会員で特別会員を希望する場合、10年以上継続して会員で終身会員を希望する場合にもご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

(4) 会費納入

6月頃に会費振込用紙を郵送いたします。本学会は、学会費によって維持されています。学会費が未納の会員については、学会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会員資格によって学会費が変更されますので、ご確認ください。

(5) 「会報 比較家族史」について

『会報 比較家族史』は、昨年度より印刷を取りやめ、ホームページに掲載するとともにメールにてお知らせしています。

なお、バックナンバーをホームページで公開していますが、**57、58、62、63、65号**が欠号となっています。当該のバックナンバーをお持ちの会員がいらっしゃいましたら、お手数ですがご一報いただきますようお願いいたします。

【編集委員会】

(1) 投稿論文の募集

『比較家族史研究』第36号の投稿論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、7月末までに下記の連絡先まで e-mail もしくは葉書でご連絡ください。その際、論文名（仮題で結構です）をお知らせください。投稿論文の締切は8月末です。また、今号から投稿は電子ファイルで行っていただくようお願いします。2020年8月に投稿規程を改定しております。

(2) 書評・文献紹介対象書の推薦

書評・文献紹介をご希望の方は、8月末までに下記の連絡先まで著書をお送りください。自薦他薦を問いません。

(3) 『比較家族史研究』第35号刊行の報告

第35号を刊行し、発送しました。もし、お手元に届いていない場合は下記の連絡先にご一報ください。

【連絡先】 599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 大阪府立大学 B3棟

女性学研究センター 気付 田間泰子

e-mail : tama@hs.osakafu-u.ac.jp

【企画委員会】

(1) 今後の大会について

2021年度秋季研究大会の日程、開催場所及び開催方法

日程：10月30日（土）

開催場所：尚絅大学（大会運営委員長：宇野文重）

開催方法：オンライン開催予定

(2) シリーズ出版について

家族研究の最前線⑤『家族のなかの世代間関係』2021年1月29日出版

*本書の刊行により本シリーズ5巻がすべて揃いました。会員のみならずまだお持ちでない方はぜひこの機会にご購入ください（割引にて購入可能なチラシも添付していません）。また、所属先の図書館でも揃えていただきますよう、重ねてお願い申し上げます。今後の出版活動継続のためにも、ご協力のほど、なにとぞよろしくお願いいたします。

理事会議事抄録

2020年12月6日(土)にオンラインで開催された理事会の議事録抄録を掲載します。

1. 庶務委員会

(1) メーリングリストの作成について

会員への情報発信を目的とするメーリングリストを、毎日学術フォーラムと契約し、作成することが承認された。

2. 編集委員会

(1) 『比較家族史研究』第35号について

特集、投稿、書評・紹介などの編集状況の報告があった。

(2) 『比較家族史研究』第36号について

特集企画について報告があった。

3. 企画委員会

(1) 2021年度春季研究大会

2021年6月19日(土)、20日(日)に、京都大学において開催されることが承認された。開催方法については、全面オンラインによって開催することが承認された。また大会運営委員として税所真也先生が加わることも報告された。

(2) 2021年度秋季研究大会

尚綱大学で開催されること、ならびに大会運営委員として、梅澤彩先生、柴田賢一先生が加わることが承認された。

(3) 2022年度春季研究大会

シンポジウムのテーマは「産みの親と育ての親の比較家族史」で行うことが承認された。また学会記念行事ワーキンググループとして、小池誠会長、床谷文雄先生、山田昌弘先生、平井晶子先生、李環媛先生、野辺陽子先生が選出され、その中で学会40周年記念行事について検討していくことが承認された。

(4) 2022年度秋季研究大会

2022年度秋季研究大会における企画の説明があり、若手を中心として企画運営していくことが承認された。

(5) 2023 年度春季研究大会

2023 年度春季研究大会(会場:大妻女子大学、大会運営委員長:野辺陽子先生)は、当初の企画テーマ(系図と継承)から「家族と病い」(仮)への変更が承認された。また企画委員として、土屋敦先生が加わることが承認された。

(6) 2023 年度秋季研究大会

関西大学にて、土屋敦先生を大会運営委員長として開催することが承認された。

(7) 2024 年度春季研究大会

2023 年度春季研究大会のテーマ変更に伴い、2024 年度春季研究大会のシンポジウムのテーマを「系図と継承」に変更することが承認された。

4. HP 委員会

(1) 英文ホームページの作成について

英文 HP 内のメニューの構成について、会長挨拶、入会案内、年会の発表タイトル、学会の歴史を軸として作成していくことが承認された。

5. その他

小池誠会長より、「第 25 期日本学術会議新規会員任命拒否に対する緊急声明」について、理事の承認を受けて 2020 年 10 月 22 日付けでホームページに記載したこと、また「日本学術会議第 25 期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会共同声明」に理事会として賛同したことを、2020 年 11 月 6 日にメールにて会員に配信したことが報告された。